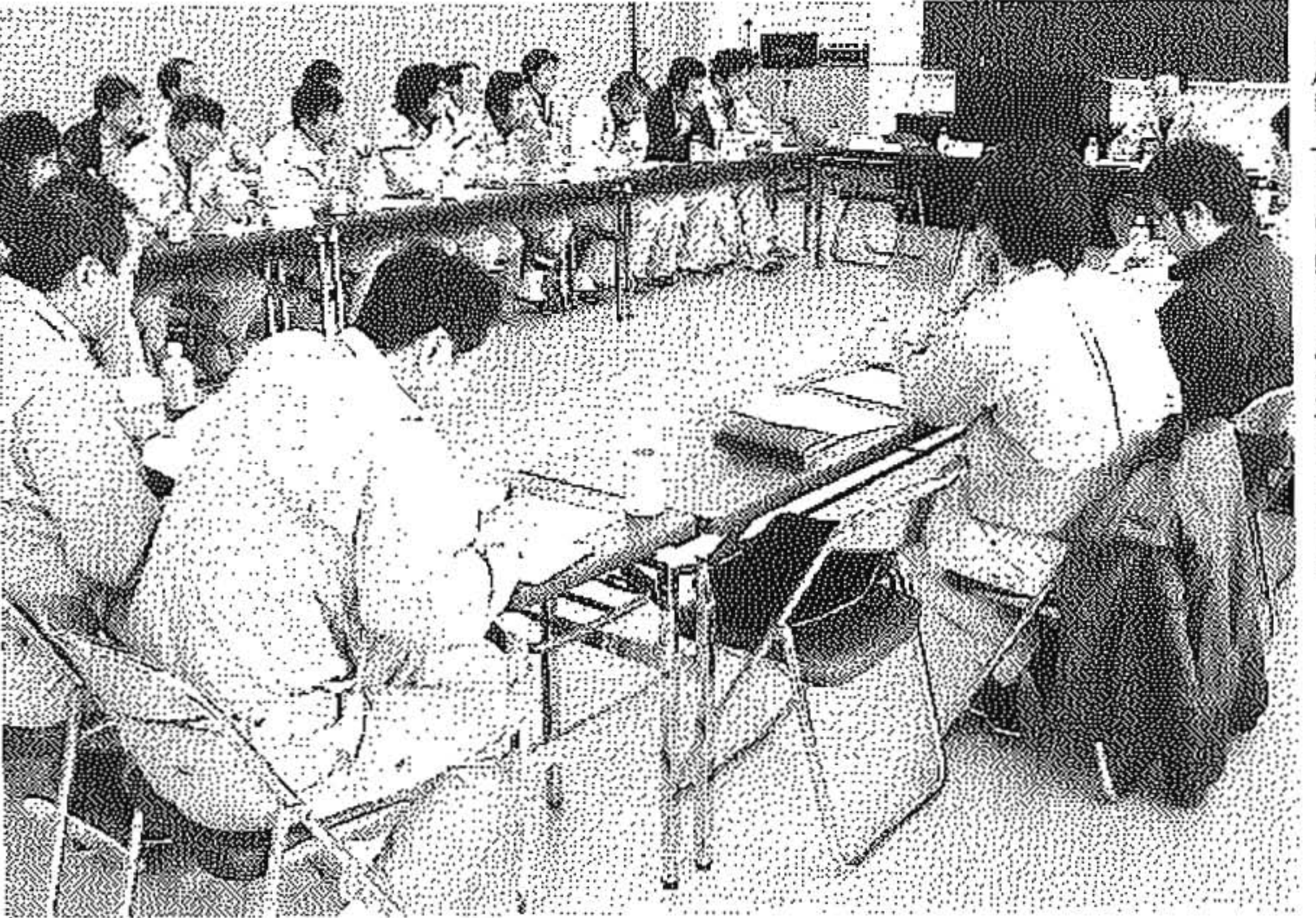


県土木土木出張所と県建設業協会 鹿島支部 技術や能力高めよう



川内市の鹿島建設会館で
活発な意見が出された会合。薩摩

皆さん一人ひとりがききうの意見交換会を自分の技術や能力を高める機会ととらえ、お互いが切磋琢磨し今後も良い製品が造れるようお願いします」と挨拶。また、石原所長も「本日の意見交換会が実りあるものとなり、より良いものを作るために発注者と受注者が意思疎通を図っていただきたい」と述べ意見交換会に入った。

県と県建築士会(守真和弘会長)は14日、鹿児島市のかごしま県民交流センターで「18年度建築技術講習会」を開き、会員ら約80人が参加、最新の建築行政の動向をはじめ、住生活基本法対策などについて知識を新たに

住生活基本法対策学ぶ

その他の質疑や要望があり、県側が個々に事情や状況を丁寧に説明し今後の対応について理解を求めた。また県側からは「前例にとらわれず現場の状況

を一番理解している現場代理人から現場に則した工法などを提案していた。また「書類などの提出前に社内照査を充分に行ってほしい」などの意見が出された。

鹿児島青年会議所 —「平成私学校2006」— 聴衆に夢と感動



人間としての行き方を語る稲盛氏。鹿児島市の城山観光ホテルで
夫氏が「人が生んだ偉大な経営者としての行き方」をテーマに講演を行い、1000人を超える聴衆に夢と感動を与えた。KJCでは、次代を担う若者たちに薩摩の先人たちの生き方や偉業、郷土の文化や伝統を継承して、島市の城山観光ホテルで開かれ、本県出身で京セラ創業者の稲盛和夫氏から「平成私学校」を聞き、聴衆は感動を覚えた。

県土木土木出張所と県建設業協会 鹿島支部 技術や能力高めよう

見交換会を開き、県側から水之浦茂次長兼工務第二課長、大土橋修工務第一課長をはじめ工務第一、二課の各係長ら職員10人、支部からは現場代理人22人が出席した。

会の冒頭、純浦支部長は「参加していただいた

者名簿の記載など診断。反省会では、「作業主任者の職務を言えない担当者があった」などの指摘があったものの、「振動計を設置して、集落内の振動や騒音防止対策に生かされている」などの模範的な事例も見られ、おおむね良好との診断結果が下された。

枕崎建設業組合パト

枕崎建設業組合(長野義哉組合長)は14日、年末・年始の労働災害撲滅に向けた恒例の年末現場パトロールを実施し、枕崎市内の各現場を厳しく

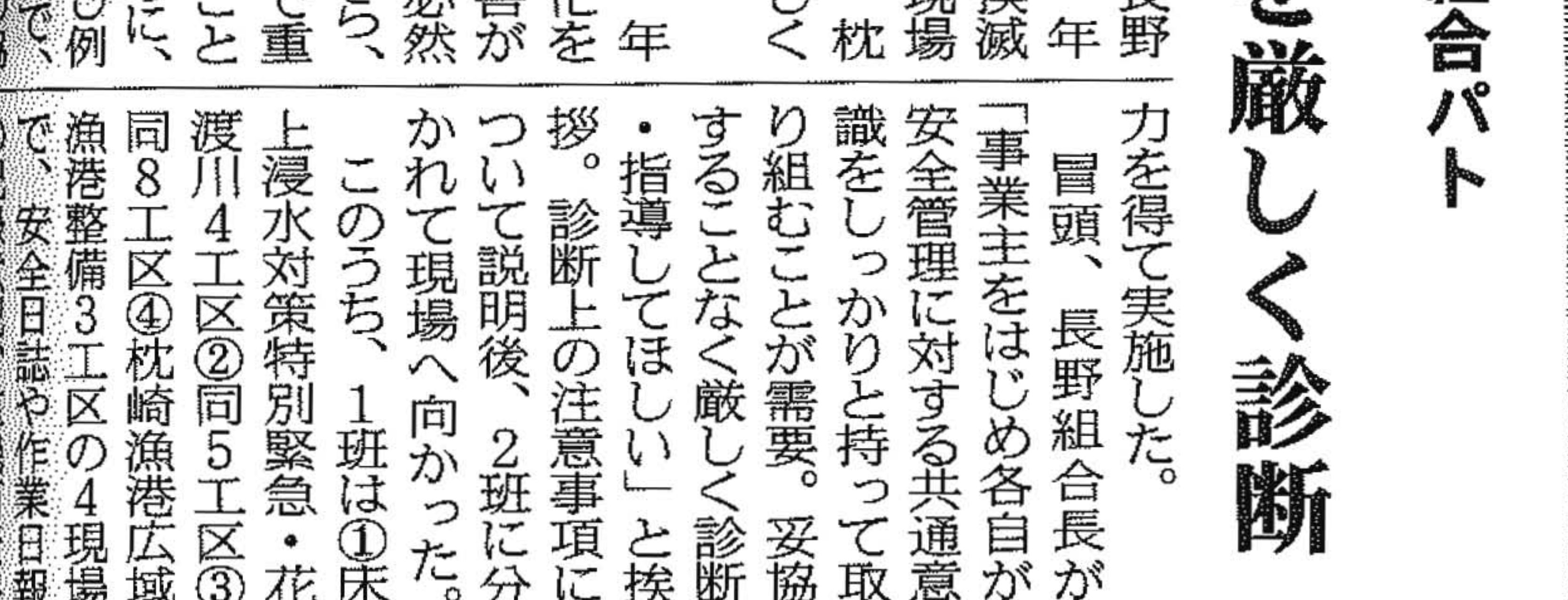
現場を厳しく診断

力を得て実施した。冒頭、長野組合長が「事業主をはじめ各自が安全管理に対する共通意識をしっかりと持って取り組むことが必要。妥協することなく厳しく診断・指導してほしい」と挨拶。診断上の注意事項について説明後、2班に分かれて現場へ向かった。

このうち、1班は①床上浸水対策特別緊急・花渡川4工区②同5工区③同8工区④枕崎漁港広域漁港整備3工区⑤の4現場で、安全日誌や作業日報

の記入状況、重機や作業

全国特定法面保護協会県事務所忘年会 1年の労ねぎらう



忘年会を開き、約40人が出席して和やかに歓談しながら今年1年の互いの労をねぎらった。

忘年会では、初めに池元所長が「今年度は法面施工管理技術者の資格取得や技術講習会を開催し、技術力の向上と品質の確保に取り組み、7月の県北部豪雨災害では関連団体とともにボランティアで復旧活動を行い、関係者から感謝された。業界には厳しい年が続くが、われわれはやるべきことを

県ビルメン協会協合同忘年懇親会 新年へ結束誓う



冒頭、野元会長は「雇

川畑理事長の乾杯の音頭で祝宴に入ると、出席者は、互いに今年1年の動きを振り返りながら、新たなスタートへさらなる結束を誓い合った。

より良い職場環境を」と挨拶する野元

会長。鹿児島市のホテル